

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	百貨店（担当者）	販売量の動き	・今年台風の影響を強く受けた年であったが、特に9、10月においては非常に厳しい結果となった。今月は天候が安定したことから、主力衣料の動向を中心に回復傾向がみられ、特に若い世代にその動向は顕著である。昨年は例年よりも高い気温が続いたことから冬衣料が大きく影響を受けたが、今年は例年並みの気温推移となっていることから、単価の高い衣料が好調となり、全体をけん引している。
		ゴルフ場（経営者）	単価の動き	・例年どおり本土からの来客数が増加しており、それに伴い客単価が上昇している。
	変わらない	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・競合店が近くにでき、来客数が減少しているが、客単価が上昇している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・営業年数が2年目、3年目の店舗では、来客数の伸びが鈍化している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・なかなか寒さがやってこないため、アウター等季節商品の売行きは良くないが、それ以外のアイテムは順調に売れている。
		家電量販店（従業員）	販売量の動き	・年末に向けての買い控え行動とも予想されるが、冷蔵庫等の売行きがあまり良くなっていない。
	やや悪く なっている	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・販売量、売上ともに前年同月比で90%前後と厳しい状況が続いている。客単価もなかなか上がらず、売上の増加も見込めない状態が続いている。
		その他専門店 [楽器]（経営者）	販売量の動き	・来客数がある割には売上が減少している。
		その他専門店 [書籍]（店長）	お客様の様子	・映画関係のベストセラー本が多く出版されているが、商品の動きは例年ほどは動いていない。ピックアップの本が出て、その商品の動きが鈍いという状況が顕著に起こっている。
		その他飲食[居酒屋]（経営者）	来客数の動き	・例年、11月は20日過ぎから売上が上昇するのだが、今年は例年より15%下落している。リピーターは安定しているが、一見客がかなり少ない。
都市型ホテル（マーケティング担当）		来客数の動き	・例年10月以降は団体旅行のシーズンに入り動きも活発になってくるが、今月は例年の動きがなく前年同月比も下回っている状況である。本土での台風による被害や新潟中越地震による影響が出ているのではないかと予想される。	
観光名所（職員）		来客数の動き	・来客数は11月24日現在88.4%で、前年同月比で11.6%程度の減少となっており、前年同月比で101%であった3か月前と比較しても減少している。台風や地震災害等で観光客の動きが鈍くなっており、客層としては修学旅行や一般団体が中心となっている。	
住宅販売会社（経営者）		競争相手の様子	・同業他社の倒産が激増しており、景気を悪くする要因となっている。	
悪く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・街中に観光客の往来は多々あるが、なかなか売上に結び付いていない。地域の方は郊外店に流れて、商店街は日々、大変な危機的状況にある。	
	一般小売店[衣料品・雑貨]（経営者）	販売量の動き	・11月下旬より急激に来客数、客単価がともに減少している。それに伴い売上高も予想より下落している。客単価の減少は土産目的での購入者が少なくなったことによるもので、年間を通して例年11月と2月は下がる傾向にあるのだが、今月は昨年以上に厳しい。	
	観光型ホテル（営業担当）	販売量の動き	・稼働率、客室単価ともに目標を下回り苦戦している。台風、地震等の災害の影響により国内旅行者数が減少している。	
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・契約件数が増加している。
	変わらない	不動産業（支店長）	受注量や販売量の動き	・問い合わせ件数、来客数、成約件数が横ばいの状態である。

	やや悪くなっている	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・物量が減少し、売上額も下落している。大手家電販売店の進出による影響も落ち着き、消費も沈滞気味である。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が減少傾向にある。
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・県外では製造業が、県内では特にフード、サービス業関連の求人数が増加している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は3か月前比で2.2%増加しており、これを雇用形態別で見ると一般求人は3か月前比で0.8%の増加、パート求人は同8.3%増加となっている。産業別で見ると、建設業、製造業、卸売・小売業、金融・保険業、不動産業、複合サービス業、サービス業の各産業で求人が増加しており、情報通信業、運輸業、飲食店・宿泊業、医療・福祉業で減少している。有効求人倍率は0.51倍で3か月前比で0.05ポイント上昇している。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・この1か月、ほとんど動きが停滞している。また同業他社の様子を聞いても同じような状況が見受けられることから変わらない。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・求人数は堅調に推移しているが、極端な増加傾向はみられない。年末に向け、卸小売業の求人が目立っている。
		学校〔大学〕（就職担当）	雇用形態の様子	・県内求人数は昨年より微増だが、正社員募集が少なく、契約社員の採用等が増えている傾向にある。そのため、学生達がなかなかチャレンジしない傾向にある。
	やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-	